

2018年

市民公募委員サロンだより

開催 目的

京都市では、「環境」「公契約」「スポーツ」「子ども」「食の安全」等、様々なテーマを扱う審議会等（外部有識者会議）において、約190人の市民公募委員の方にご就任いただいています。

この度、市民公募委員の皆さんが、委員としてもっとやりがいを感じるにはどうすればよいかを一緒に学び、交流する「市民公募委員サロン」を開催しました。

主催：市民参加推進フォーラム（京都市の市民参加を推進する附属機関）

- 対象：京都市の附属機関等で市民公募委員として就任している皆様
- 日時：平成30年12月18日（火） 午後6時45分から午後9時まで
- 場所：職員会館かもがわ 大会議室
- タイムテーブル

18：45 開会、趣旨説明
19：15 グループ交流（20分×2ラウンド）
19：55 参加者の皆さんから出た「話し合ってみたいテーマ」について意見交換
20：55 全体共有
21：00 閉会

- ・市民公募委員 12名
- ・市民参加推進フォーラム委員 10名
- ・京都市職員（一般参加） 2名
- ・市民参加推進フォーラム事務局 4名

28名

当日の内容は裏面へGo！→



「市民公募委員サロン」アンケート（回答数12）

1. 公募委員サロン参加の動機

- ・他の市民公募委員がどのような人か知りたかった。
- ・他の市民公募委員の方が何を考えているかを知りたかった。
- ・面白そうだったから。
- ・市民公募委員として不明な点を相談したかった。

3. 良かった点

- ・全員が話す機会がありよかった。
- ・他の公募委員の方との課題や思いが共有できてよかった。
- ・他の市民公募委員の方のことを知ることができた。
- ・市民公募委員の方が思っている本音が聞けた。

2. 参加後の心境の変化や抱負

- ・より広い視点から、具体的な話をすることの重要性を思った。
- ・自分はまだまだ未熟だと思った。
- ・自分の思いのまま参加していいと思った。
- ・市民公募委員のあり方、進め方について、考えるようになった。
- ・次の会議がうまくいくように勉強したいと思えた。

4. 改善した方がいい点

- ・時間が足りなかったもので、ぜひ1年に何回もやってもらえればと思う。
- ・公募委員以外の人も参加できていいのでは。
- ・年末より、5～6月開催の方が良いと思う。
- ・若い方達にもっと参加してもらえる企画を考えて欲しい。

グループ交流

テーマ①

「市民公募委員になって良かったな、うれしいなと思ったこと」

自分の意見が提案に反映された。

市の施策と自分の生活が、つながっていると分かった。

自分の発言を座長に評価してもらえた。

事前のレクチャーが丁寧に行われ、施策への理解が進んだ。

若い公募委員の方と活動できて刺激になる。

公募委員になったことで、知らなかった専門的な知識や、最先端な情報を得ることができた。

「市民公募委員になって良かったな、うれしいなと思ったこと」

テーマ②

「市民公募委員になって大変だ、モヤモヤするなと思ったこと」

年に1回など、会議の開催回数が少ない。

公募委員に何を期待しているのか分からない。

資料説明に時間がとられて、委員の発言できる時間が少ない。もっと会議の運営方法を考えてほしい。

専門家の方ばかりで、不明な点があっても「自分の知識がないだけじゃないか」と思って発言を躊躇してしまう。

出した意見が届いたのか届いていないのかが分からない。

資料をその場で渡されても、意見を言うのは困難。

「市民公募委員になって大変だ、モヤモヤするなと思ったこと」

参加者の皆さんから出た「話し合いたいテーマ」について意見交換

テーマ①

「市民公募委員はアリバイ作りなのか」

- 制度に問題がある
→ 選考のプロセスはどうなっているの？
→ 参加しやすい開催時間の設定や、若い人が参加しやすい工夫が必要。
- 公募委員の教育の場が必要
→ 発言するためのトレーニングが必要。
- 会議の責任者の進行・マネジメント力を上げる。

テーマ②

「会議が年に1回だけって、どうなの？」

- 報告と次回会議内容の検討で終わってしまい、過程に踏み込めない。
- 現場を見たり、もっと進展を確認したりできないの？
→ 開催回数が多いと負担かも…（事務局側の思い）
→ 公募委員はむしろもっと参加したい。
- 発言の少ない専門家の人もある
→ 公募委員が話しやすいような発言をしてくれてもいいのでは。
- 自分の所属する会議体は年4回程度会議があるので、会議体によってかなりばらつきがある。

テーマ③

「市民公募委員と専門家とのギャップを埋める為にはどうすればいい？」

- 市民公募委員に何を期待しているのかを明確にしてほしい。
- 専門家の人にも、活発な会議になるように、会議の運営方法などを学ぶべきではないか。
- 行政には、公募委員と専門家をつなぐ努力が必要（公募委員を選んだ責任がある）。

